令和３年

Ｙ８サミット創快横手市議会
会　議　録

自　　令和３年11月10日

至　　令和３年11月10日

Ｙ８サミット創快横手市議会

令和３年Ｙ８サミット創快横手市議会会議録目次

11月10日（水曜日）

○議事日程（第１号）……………………………………………………………………………………………１
○会議に付した案件……………………………………………………………………………………………１
○出　席　議　員……………………………………………………………………………………………１
○説明のため出席した者………………………………………………………………………………………２
○開　　　　　会……………………………………………………………………………………………４
・議席の指定について……………………………………………………………………………………４
・議長の選出について……………………………………………………………………………………４
・会議録署名議員の指名について………………………………………………………………………５
・会期の決定について……………………………………………………………………………………５
・「横手市中学校創快宣言」に基づく各校の実践報告………………………………………………６
十　文　字　中　学　校（髙橋英佑議員・糸井遥斗議員・梅津茉歩議員）……………………………６
横手清陵学院中学校（鎌田渉吾議員・藤田萌々香議員・太田陽朗議員）……………………………７
平　鹿　中　学　校（貴俵明凜議員・戸田奏議員・清水滝之進議員）……………………………９
横　手　北　中　学　校（竹原志信議員・髙橋優太議員・島田果凜議員）……………………………11
横手明峰中学校（酒井玲旺議員・最上留伊議員・谷口莉子議員）……………………………12
横　手　南　中　学　校（鶴田琉太郎議員・藤井健佑議員・加藤望花議員）……………………………14
増　田　中　学　校（田村日和議員・珍田凌太朗議員・黒坂翔汰議員）……………………………16
・Ｙ８から横手市への提案…………………………………………………………………………………17
増　田　中　学　校……………………………………………………………………………………17
平　鹿　中　学　校　横　手　南　中　学　校　横手明峰中学校……………………………………20
十　文　字　中　学　校　横　手　北　中　学　校　横手清陵学院中学校……………………………23
○閉　　　　　会……………………………………………………………………………………………26
○署　名　議　員……………………………………………………………………………………………27

令和３年11月10日（水曜日）

（第　１　号）

令和３年Ｙ８サミット創快横手市議会会議録

議事日程（第１号）

令和３年１１月１０日（水曜日）午後１時１２分開会

第　１　議席の指定について
第　２　議長の選出について
第　３　会議録署名議員の指名について
第　４　会期の決定について
第　５　実践報告「【つながり】を大切にした十文字中学校の取組について」
　　　　　　（十文字中学校）
第　６　実践報告「互いに認め合い、一人一人が活躍するための取組について」
　　　　　　（横手清陵学院中学校）
第　７　実践報告「人と人とのつながりを深める平鹿中の取組について」
　　　　　　（平鹿中学校）
第　８　実践報告「【あいさつ】【つながり】を意識した取組「全校クリーンアップ・あいさつ運動
　　　　　　～北中プライド・地域への誇り～」について」
　　　　　　（横手北中学校）
第　９　実践報告「地域と共に歩む生徒会活動～学校創立10年目の取組～について」
　　　　　　（横手明峰中学校）
第１０　実践報告「校歌『ひとすじの道』と進むべき51年目の新たな南中について」
　　　　　　（横手南中学校）
第１１　実践報告「『地域と共にある学校』を目指す私たちの取組について」
　　　　　　（増田中学校）
第１２　Ｙ８提案「３Ｃ(Connect with the Community to Contribute)活動」の拡充について」
　　　　　　（増田中学校）
第１３　Ｙ８提案「認め合い・ＹＯＫＯＴＥ拡大バージョン～横手のよさ・魅力を発信！～について」
　　　　　　（平鹿中学校　横手南中学校　横手明峰中学校）
第１４　Ｙ８提案「「Ｙ８発！横手を元気にキャンペーン」の実施について」
　　　　　　（十文字中学校　横手北中学校　横手清陵学院中学校）

本日の会議に付した案件

議事日程第１号に同じ

出席議員（２１名）

２番	鶴　田　琉太郎	３番	藤　田　萌々香
５番	貴　俵　明　凛	６番	戸　田　　　奏
７番	清　水　滝之進	８番	藤　井　健　佑
９番	加　藤　望　花	１０番	鎌　田　渉　吾
１１番	太　田　陽　朗	１２番	竹　原　志　信
１３番	髙　橋　優　太	１４番	島　田　果　凜
１５番	酒　井　玲　旺	１６番	最　上　留　伊
１７番	谷　口　莉　子	１８番	田　村　日　和
１９番	珍　田　凌太朗	２０番	黒　坂　翔　汰
２１番	髙　橋　英　佑	２２番	糸　井　遥　斗
２３番	梅　津　茉　歩		

説明のため出席した者（２８名）

市長	髙　橋　　　大	副市長	藤　本　和　宏
教育長	伊　藤　孝　俊	総務企画部長	村　田　清　和
財務部長	佐　藤　　　勉	まちづくり推進部長	佐　藤　雅　義
市民福祉部長	竹　原　信　寿	商工観光部長	佐々木　公　仁
建設部長	池　田　　　智	上下水道部長	木　村　　　忠
教育総務部長	木　村　雅　美	教育指導部長	岩　野　玲　子
消防長	菅　谷　和　明	市立横手病院事務局長	高　橋　　　功
市立大森病院事務局長	佐々木　寛　己	総務課長	佐　藤　　　信
秘書広報課長	高　橋　美貴子	人事課長	小　玉　幸　平
経営企画課長	森　田　博　範	財政課長	小　松　忠　昭
横手地域局長	伊勢谷　　　篤	増田地域局長	阿　部　隆　雄
平鹿地域局長	齋　藤　美和子	雄物川地域局長	上　法　　　満
大森地域局長	佐　藤　育　三	十文字地域局長	和　泉　久　夫
山内地域局長	木　村　　　亙	大雄地域局長	竹　内　　　勉

横手市教育委員会出席者

教育指導課長	西 村 直 崇	教育指導課主査	後 藤 浩 孝
教育指導課主査	高 橋 夏 子		

横手市議会出席者

議　　　　長	寿松木　　孝

議会事務局出席者

事 務 局 長	中 村 広 幸	主　　　　幹	木 村 智 子
上 席 副 主 幹	藤 井 みゆき	議事調査係主査	泉　　絵理子
議事調査係主査	大 極 孝 春	総 務 係 主 任	藤 原 祐 太

午後１時１２分　開　会

◎開会及び開議の宣告

○中村広幸　議会事務局長　皆さん、こんにちは。

令和３年Ｙ８サミット創快横手市議会の開会にあたり、議長が選出されるまでの間、議長の職務を行う臨時議長の選出を行います。地方自治法第 107 条の規定では、年長の議員が臨時議長の職務を行うことになっておりますが、皆さんは同年代でありますので、今回は、横手市議会の寿松木孝議長に臨時議長をお願いいたします。寿松木議長、よろしくお願いいたします。

○寿松木孝　臨時議長　ただいまご紹介ありました横手市議会議長の寿松木孝でございます。

Ｙ８サミット創快横手市議会の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、市内７中学校のＹ８サミットメンバーと学校代表の生徒の皆さん、また、傍聴席には学校関係者の方々をお迎えし、盛大に開催されますことを心よりお慶びを申し上げます。

さて、８回目となります今回は、各中学校の皆さんから横手市中学校創快宣言に基づく実践報告を発表いただいて、各校の取組を地域に役立てていくための提案を行うというふうに伺っております。創快宣言にある、認め合い、感謝、あいさつ、つながり、この４つの宣言文にはコロナ禍の今、私たち一人一人が安心して過ごすための本当に大切な言葉が書かれているものだというふうに感じております。

世界的なパンデミックによりまして、誰もが全く予想もしなかった未来がやってきてしまいました。当たり前に学校に通い、先生や生徒と過ごす日常の風景が 180 度変わってしまったように感じられたこともあったと思われます。そんな人と人との心のふれあいや交流について考えさせられる日々でありますが、皆さんの熱い思いが提案へと結びつき、市長との議論の下、形となりながら地域に広がっていく、そんな始まりの日になっていただきたいと心から願っています。

結びに、本日のＹ８サミット創快横手市議会が実りの多いものになりますようご期待申し上げまして、激励の挨拶といたします。

それでは臨時議長の職務を行います。どうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから、令和３年Ｙ８サミット創快横手市議会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

◎議席の指定について

○寿松木孝　臨時議長　日程第１、議席の指定を行います。

議席はただいま着席の議席といたします。

◎議長の選出について

○寿松木孝　臨時議長　日程第２、議長の選出を行います。

議長は議員の中から議会の選挙により選ばれることになっておりますが、今回は指名推選の方法によ

り行うことにいたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○寿松木孝　臨時議長　ご異議なしと認めます。したがいまして、議長は指名推選の方法によることに決定をいたしました。

Ｙ８サミット創快横手市議会では、前半と後半でそれぞれ１名の議長に議事の進行を行っていただきますので、２名の推薦をお願いいたします。それでは、ご推薦願います。

15 番、横手明峰中学校、酒井玲旺議員。

○１５番（横手明峰中学校、酒井玲旺議員）　２番、横手南中学校、鶴田琉太郎議員、３番、横手清陵学院中学校、藤田萌々香議員の２名を推薦します。

○寿松木孝　臨時議長　ただいま指名されました２番、横手南中学校　鶴田琉太郎議員、３番、横手清陵学院中学校、藤田萌々香議員の２名を議長の当選人とすることにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○寿松木孝　臨時議長　ご異議なしと認めます。したがって、ただいま指名されました２番、横手南中学校、鶴田琉太郎議員。３番、横手清陵学院中学校、藤田萌々香議員の２名が議長に当選をされました。

以上をもちまして、臨時議長の職務は終了いたしました。

前半の議事進行は、２番、横手南中学校、鶴田琉太郎議員にお願いいたします。

鶴田議長、議長席にお着き願います。

【寿松木孝臨時議長 議長席を退き、鶴田琉太郎議長 議長席に着く】

○鶴田琉太郎　議長　スムーズに進行したいと思います。よろしくお願いします。

◎会議録署名議員の指名について

○鶴田琉太郎　議長　日程第３、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は横手市議会会議規則第 81 条の規定を準用し、18 番、増田中学校、田村日和議員、21 番、十文字中学校、髙橋英佑議員を議長が指名いたします。

◎会期の決定について

○鶴田琉太郎　議長　日程第４、会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

Ｙ８サミット創快横手市議会の会期は、本日１日といたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

○鶴田琉太郎　議長　ご異議なしと認めます。したがって、会期は本日１日と決定いたしました。

◎「横手市中学校創快宣言」に基づく各校の実践報告

○鶴田琉太郎　議長　それでは、「横手市中学校創快宣言」に基づく各校の実践報告を行います。

日程第５、十文字中学校の実践報告「【つながり】を大切にした十文字中学校の取組について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇十文字中学校（髙橋英佑議員・糸井遥斗議員・梅津茉歩議員）

○鶴田琉太郎　議長　十文字中学校に発言を許可いたします。

21番、髙橋英佑議員、22番、糸井遥斗議員、23番、梅津茉歩議員。

○２１番（十文字中学校　髙橋英佑議員）　これから、十文字中学校の報告を始めます。よろしくお願いします。

私たちは校訓「共躍大志」のもと、今年度の生徒会テーマを「ＬＩＮＫ」に設定しました。この「ＬＩＮＫ」には、生徒会の各専門委員会をつなぐ、縦割りの活動で学年を越えた絆を深める、これまでの伝統や十中のよさを次の世代へつなぐ、地域や十文字小学校との結び付きを強めるという４つの願いが込められています。横手市中学校創快宣言の「つながり」に重点をおいて、今年度行ってきた活動を報告いたします。

まず１つ目は、あいさつ運動です。これは、十文字中学校生徒会が特に力を入れている取組の１つです。中学生が週に一度、朝の登校時間に十文字小学校に出向き、あいさつ運動を行っています。十文字中学校と十文字小学校は校舎が隣接しており、小学校の校門前であいさつ運動をしている様子は、小学生と中学生のどちらも目にも入ります。あいさつ運動を習慣化し取組を継続することで生徒の挨拶への意識が高まってきました。

今年度から４つの小学校が統合し、十文字小学校が新しいスタートを切りました。小学校の先生方から「初めのころは、お互いによそよそしい様子だった子どもたちが、中学生があいさつ運動を行ってくれたおかげで、校内でもすれ違うたびに挨拶を交わすなど、挨拶が飛び交うようになってうれしい」とおっしゃっていただくなど、小学生の挨拶の向上についても成果が見られました。

これは学校内にとどまらず、中学生が地域の方々へ積極的に挨拶を行うなどの効果も出ています。今後はこのあいさつ運動を地域の方々とも一緒に行っていきたいと考えています。

２つ目は、縦割り活動です。十文字中学校では体育祭の種目練習を兄弟学級で取り組んだり、合唱コンクールに向けて兄弟学級で合唱を聴き合ったりと、縦割り活動を大切にしています。３年生が手本となり、一人一人がリーダーシップを発揮して後輩に指導や助言をすることで、より完成度の高い活動ができたり、後輩が目指す先輩としてのあるべき姿を示すことができ、最高学年としての自覚と責任が一層強まりました。

さらに今年度は、新たに清掃活動にも縦割り活動を取り入れました。以前よりも学年隔たりなくコミュニケーションを積極的にとるようになり、学校が全体的に明るい雰囲気になりました。また、手本を示す上級生も、その姿を見習う下級生のどちらも、活動の質が向上しています。

３つ目は、委員会同士のコラボです。現在、図書委員会と新聞委員会が連携し、共同で新聞を制作したり、体育委員会と学年委員会が共同して学年レクリエーションを企画したりしています。委員会同士のコラボを行うことで、１つの委員会では実行が難しい活動にも挑戦できるなど、活動の幅が広くなり、さらに活性化が図られています。決められた活動を進めるだけではなく、新たな取り組みを考え、試行錯誤することで、生徒会活動への責任感や関心を高めるきっかけにもなっています。

４つ目は、認め合い活動です。「ＧＯＯＤ　ＰＯＩＮＴ　ＡＣＴＩＯＮ」というお互いのよいところを見つける活動を生活委員会が中心となって行いました。お互いのよさを出し合い、放送を通して全校に広める活動を行うことで、生徒それぞれが見つけたよさを学級や全校生徒と共有することができ、学校全体で、認め合いの意識を高める機会になりました。

５つ目は、10 周年企画プラスワン活動です。昨年度、十文字中学校は創立 10 周年を迎え、様々な委員会が新しい企画を行いました。例えば、昨年度、保健委員会が健康な生活への意識を高めるために行ったヘルス 10th ミッションは、今年度、改善を図りながらヘルス 11th ミッションとして実施しています。これまで先輩方が築いてきた伝統をそのまま引き継ぐのではなく、過去、現在、未来をつなぎ、よりよい形に変化を加えながら次の世代に継承していきたいと考えています。つながりを大事にすることで、さらなる創快な学校生活を自分たちの手でつくり上げていきます。

以上で十文字中学校の報告を終わります。ありがとうございました。

○鶴田琉太郎　議長　これで、十文字中学校の実践報告を終わります。

日程第６、横手清陵学院中学校の実践報告「互いに認め合い、一人一人が活躍するための取組について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇横手清陵学院中学校（鎌田渉吾議員・藤田萌々香議員・太田陽朗議員）

○鶴田琉太郎　議長　横手清陵学院中学校に発言を許可いたします。

10 番、鎌田渉吾議員、３番、藤田萌々香議員、11 番、太田陽朗議員。

○１０番（横手清陵学院中学校　鎌田渉吾議員）　今年度の横手清陵学院中学校は「百花斉放～ＳＴＲＩＫＥ　ＳＰＡＲＫＳ！～」のテーマのもと、全校生徒一人一人が活躍するための活動、中学校全体の一体感をもたせるための活動、地域との関わりを深め社会に貢献する活動の３つの柱に沿って様々な活動に取り組んできました。創快宣言に基づいた活動として、今年度取り組んできたことを報告します。

まずは、創快宣言「認め合い」「感謝」に関わる活動についてです。お互いのがんばりへの感謝や励ましの気持ちを伝え合う、各委員会への感謝の言葉、部活動応援メッセージに取り組みました。普段の

学校生活を豊かで快適なものにするために日々頑張っている各委員会の活動に対して、感謝の言葉をメッセージカードに書いて掲示したり、大会に出場する選手に向けて、全校生徒が応援メッセージを書き、掲示する活動です。これらの活動から、「意見だけでなく感謝や激励のメッセージがあり、次への意欲につながる」「全校が応援してくれていると感じた」などという多くの生徒の声をもらうことができました。

また、お互いのよさを伝え合う活動として、褒めムービーの制作に取り組みました。年度当初、自分たちの学級のよいところや頑張っていることをポスターにまとめ、掲示する計画を立てていました。しかし、Ｙ８サミットの活動で、友達のよいところや感謝を伝え合う動画メッセージによって「認め合い」に取り組んでいる平鹿中学校の活動を知りました。ポスターより動画の方がより思いが伝わるのではないかと考え、平鹿中の活動を参考にして制作したものです。清陵祭で、主に家族や他学年に一人一人のよさや頑張りを発信することを目標にして制作に取り組んだことで、「自分の努力や成果などを多くの人に見てもらい、努力を評価されているようでうれしい」という言葉を多くの生徒からもらうことができ、全校生徒の頑張りを引き出す活動になったと考えています。

続いて、創快宣言「あいさつ」に基づくさわやか清陵運動についてです。この活動は、横手清陵学院中高合同で行っているあいさつ運動です。通学路の各箇所での活動と、毎週、玄関前での活動を行っています。朝の挨拶を元気に交わすことで、生徒や地域の方々に今日も頑張ろうという気持ちをもって１日をスタートしてもらえたらと考え実施しています。挨拶についても、他校の取組から参考になったことが多く、さらなる改善を進めていきたいと考えています。

○１１番（横手清陵学院中学校　太田陽朗議員）　続いて、創快宣言「つながり」に基づく取組として、中学校全体の一体感をもたせるための活動に力を入れました。学校全体の一体感を高めるには、達成感を共有できる活動が必要であると考えました。清陵祭に向けたミュージックビデオや学校のマスコットキャラクターを使用したアート作品の制作において、全校生徒全員が関われるように活動を工夫し、一体感を高める活動にすることができました。

さらに、今年度は生徒同士のつながりだけではなく、地域とのつながりを広げていきたいと考えました。地域との関わりを深める、社会に貢献する活動として、高校生徒会と合同でリサイクルに取り組むＥＣＯプロジェクトやクリーンアップボランティアにチャレンジしました。活動を振り返り、地域の方々との協力などにより、さらに地域への貢献ができるのではという思いが高まりました。

今後の視点としては、学校での活動だけではなく、自分が住んでいる地域の雪寄せを手伝うなど、地域の方々との関わりを深めていけるような活動を行っていくことも大事だと考えています。あいさつ運動の活性化、クリーンアップボランティアの工夫など、清陵学院全員の取り組みを認めてもらえるように活動の推進を図るとともに、自分が住む地域での活動にも参加し、進んで地域の方々との関わりをもとうとする清陵学院中学校を目指していきたいと思います。

今年度は、Ｙ８のサミットの活動を通して、他校の取組や議員の方々のお話を聞き、新しい取組にチ

ャレンジしたり、活動の改善を図ったりできたことが大きな収穫です。他校との関わりを大切にしながら、よりよい活動を目指していきたいと考えています。

以上で、横手清陵学院中学校の報告を終わります。ありがとうございました。

○鶴田琉太郎　議長　これで、横手清陵学院中学校の実践報告を終わります。

日程第７、平鹿中学校の実践報告「人と人とのつながりを深める平鹿中の取組について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇平鹿中学校（貴俵明凛議員・戸田奏議員・清水滝之進議員）

○鶴田琉太郎　議長　平鹿中学校に発言を許可いたします。

５番、貴俵明凛議員、６番、戸田奏議員、７番、清水滝之進議員。

○５番（平鹿中学校　貴俵明凛議員）　平鹿中学校の今年度の生徒会テーマは「結～今つながる 276 の絆～」です。コロナ禍の今だからこそ、平鹿中生一人一人の個性を結びつけ、学級や学年を超えた絆づくりに取り組みたいという思いを込めました。平鹿中生 276 人の考えと個性が、平鹿中学校生徒会をつくる源となり、生徒間の関わりやつながりを深める１年にしたいと考えて取り組んできた３つの活動について報告します。

○６番（平鹿中学校　戸田奏議員）　１つ目の活動は、あいさつ運動です。平鹿中学校では、生活委員会を中心として朝のあいさつ運動を行っています。互いに挨拶を交わすことは、生徒会テーマにもある、つながりを感じる第一歩だと思います。特に、朝から元気よく挨拶を交わすことで、１日のスタートが明るくなり、その１日を楽しく過ごすことができると思います。４月当初、入学したての１年生の中には、大きな声で挨拶をすることに不安を感じている様子の生徒も多かったのですが、最近は、１年生を始め全校生徒の挨拶の声と表情がよくなってきたと感じています。

今年度はコロナ禍で中止となりましたが、例年は、小学校へ平鹿中生が出向いて、朝のあいさつ運動も行っていました。来年度は、小学校での朝のあいさつ運動も行い、地域のつながりも大切にしていきたいと思います。また、現在は生活委員会が中心となって行っていますが、部活動単位や学級単位での取組も考えたいと思います。

２つ目の活動は、褒め曜日です。褒め曜日とは、毎週金曜日の帰りの会で、お互いを褒め合ったり、平鹿中や横手市のよいところを褒めたりする活動のことです。毎週提示されるお題について、３～４人のグループで１分間で思いを伝え合います。おととし、昨年と行っていた互いのよいところ探しは、毎週継続することが難しいという課題があったので、今年度は、継続のために２つの工夫をしました。１つ目は学級委員で構成される学年委員会と協力したことです。これにより、各学級で確実に行えるようにしました。２つ目は、その週のお題を全校生徒が通る場所に掲示したことです。これにより、褒め曜日を全校生徒に意識付けることができました。また、内容についても、創快宣言の「認め合い」「感謝」

「つながり」を意識できるようになりました。

基本的には、友達のよいところを褒めるという活動ですが、さらに今年度は、体育祭でのみんなのがんばり、合唱練習での学級のよいところ、平鹿中のよいところ、横手市のよいところなど、幅広く、褒めたり認め合ったりする活動ができました。

○７番（平鹿中学校　清水滝之進議員）　この活動を行った効果として、「認め合い」が私たちの生活の中に当たり前のこととして浸透していることがあげられると思います。その週のお題を意識して生活することで、普段の生活の中で友達のよさを自然に見つけることができるようになりました。それだけではなく、友達から褒められることで自分の新たなよさに気づくことができました。自信を持つことにもつながりました。１分間という短い時間ではありますが、その１分間のみんなの表情が明るく、この時間を楽しんで取り組むことで、学級の雰囲気もどんどんよくなりました。今年度は、平鹿中のよいところや横手市のよいところという新たな視点のお題も取り入れたことで、平鹿中や横手市のよさを再発見し、学校や自分たちのふるさとに誇りをもつことにつながったと思います。

３つ目の活動は、褒めムービーです。褒め曜日の活動で学級の友達同士のつながりを深めることだけではなく、そのつながりを全校に広げられないかと考え、今年度導入されたタブレットを活用して行った活動です。校内で生徒が多く通る場所にタブレットを使った撮影用のブースを作り、生徒に友達や先生への感謝の言葉を撮影してもらいました。１週間かけていろいろな人に動画を撮ってもらい、それを編集し、給食の時間に各クラスで放映しました。

一昨年も、友達や先輩、後輩への感謝のメッセージを付箋に書いてもらい、掲示するという活動を行っていましたが、今年度は、より身近な活動として参加できるように、また、感謝の気持ちがより伝わりやすい方法としてタブレットを活用しました。褒めムービーは全校生徒から好評で、学級内だけでなく、学年間の縦のつながりを意識できる活動となりました。みんなが撮った動画を見ていると、自分への感謝の言葉でなくても、なんだか嬉しくてあたたかい気持ちになりました。「認め合い」「感謝」を大切にしていくことは、私たちの学校生活の充実、さらには学校以外でもみんなが住みやすい社会をつくっていくために大切なことであると考えます。

この活動によって、地域の方々とのつながりも深めたいと考え、学校祭で地域の方々にも褒めムービーを撮っていただこうと企画をしていましたが、今年度は生徒だけでの学校祭となり、実現できませんでした。来年度は、学級、学校だけでなく、地域の方々とのつながりを感じられる活動に広げていきたいと考えています。

以上で平鹿中学校からの報告を終わります。ありがとうございました。

○鶴田琉太郎　議長　これで、平鹿中学校の実践報告を終わります。

日程第８、横手北中学校の実践報告「【あいさつ】【つながり】を意識した取組「全校クリーンアップ・あいさつ運動～北中プライド・地域への誇り～について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇横手北中学校（竹原志信議員・髙橋優太議員・島田果凜議員）

〇鶴田琉太郎　議長　横手北中学校に発言を許可いたします。

12番、竹原志信議員、13番、髙橋優太議員、14番、島田果凜議員。

〇１２番（横手北中学校　竹原志信議員）　私たち横手北中学校は、校訓「友愛、生新、躍動」のもと、生徒会によって制定された「北中宣言」の実現を目指して活動しています。今年度は「北中プライド～３つの誇りをもつ生徒～」というスクールキャッチコピーのもと、学校への誇り、地域への誇り、北中生であることの誇りの３つの誇りをもつ北中生を、全校生徒が目指す姿として学校生活を送っています。北中プライドを意識した姿が多くの場面で見られ、特に３年生は、横手北中の最高学年としてどのような姿であるべきか、そして、後輩の手本となる姿はどのようなものかを考え、行動することができるようになってきたと感じます。

来年度、横手北中学校は開校 10 年目を迎えます。これからの北中生はどうあるべきかを考え、その実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。創快宣言を意識した学校生活の向上を目指して取り組んできた主な活動を紹介します。

１つ目は、校訓「友愛」に基づく活動でもあり、創快宣言「認め合い」「感謝」につながる活動である、北中愛ことばボードの作成です。保健委員会が中心となり、各学級で、今まで学校生活の中で自分が受け取った友達からの温かい言葉やエピソードを書いた付箋をボードに掲示し、お互いに見合う活動です。学校生活の中で、友達の言葉により、励まされたり、勇気をもらったりしている生徒が多いことがわかりました。これからも温かい言葉が学校中にあふれ、思いやりの心をもって生活することができるよう、よさや感謝を伝え合う機会を大事にしたいと考えています。

〇１４番（横手北中学校　島田果凜議員）　２つ目に、今年度は、創快宣言の「感謝」「つながり」に基づく活動として、全校クリーンアップ活動を行いました。これは北中プライドの地域への誇りを意識した取組でもあり、校訓の「生新」につながる活動でもあります。今年度は２回実施しました。１回目は学年ごとの活動として、学校付近で主に歩道の清掃活動を行いました。２回目は朝倉小地区、境町地区、安本・御所野地区、黒川地区、金沢地区とエリアを拡大して実施しました。エリアを拡大したことで、地域へのつながりを意識し、地域に貢献したいという気持ちが強まりました。また、活動の途中で、地域の方々から温かい励ましの声をかけていただき、改めて、私たち北中生は地域の方々に支えられていると感じました。通学路を清掃する、住んでいる地区を清掃するというほんの小さな活動ではありますが、「感謝」の気持ちを形にしていきたいと思います。

クリーンアップ活動をする中で、地域の課題も発見しました。普段、何気なく登校している通学路ですが、よく見るとたくさんのごみが落ちていることに気づきました。ペットボトルや空き缶、食品の包装紙などの他にたばこの吸い殻などもありました。クリーンアップはまちを清掃するだけでなく、ごみを捨てないという意識を高める活動でもあることを実感しました。まちをきれいにする活動は、私たち

中学生だけでは実現しきれません。中学生も大人も共に意識を高めていかなければならないと感じ、地域で暮らしている大人と協働した活動にしていく必要があると考えました。

〇１３番（横手北中学校　髙橋優太議員）　３つ目に、創快宣言の「つながり」「あいさつ」に基づく活動として、あいさつ運動を行いました。普段のあいさつ運動は生活委員会を中心に行っていますが、大会前には部活動ごとのあいさつ運動も行いました。部活動ごとのあいさつ運動は、全校生徒に元気を届けるだけではなく、行った側も部活動内の士気や一体感がさらに高まり、自分たちの成果にもつなげることができました。

昨年度に続いて、今年度もコロナウイルス感染症予防のため、学校祭に地域の方々を招待することができませんでした。また、全校生徒に挨拶に関するアンケートを実施したところ、「地域の方々へあいさつを積極的にしている」という項目の数値が低いという結果が出ました。そこで、地域とのつながりを絶やさないために、今まで以上に地域の方々への挨拶を頑張ることを宣言し、北中あいさつ頑張ります宣言ポスターを作り、公民館、小学校へ掲示してもらうように依頼しました。この宣言により、地域の方々への挨拶を恥ずかしがる生徒が減り、明るい挨拶を自分たちから地域の方々に届けることができるようになってきました。さらに、挨拶だけではなく、初対面の方との受け答えも丁寧にできるようになってきています。なべっこの活動で北中生がスーパーマーケットに出かけた際、北中生と接した地域の方から、その対応に感動したと学校に電話をいただいたこともありました。地域とのつながりを大切にした活動によって地域の役に立つことは、私たちの「北中プライド～地域への誇り～」の実現でもあり、学校への誇り、北中生としての誇りも高めてくれています。

〇１２番（横手北中学校　竹原志信議員）　私たち横手北中学校は、校訓「友愛、生新、躍動」のもと、今年度の活動の成果を「北中プライド」として継続していくとともに、地域と協働してさらに発展した活動にしていくことを、Ｙ８サミットから発信していきたいと考えています。詳しいことは、この後提案します。

これで横手北中学校からの報告を終わります。ありがとうございました。

〇鶴田琉太郎　議長　これで、横手北中学校の実践報告を終わります。

日程第９、横手明峰中学校の実践報告「地域と共に歩む生徒会活動～学校創立 10 年目の取組～について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇横手明峰中学校（酒井玲旺議員・最上留伊議員・谷口莉子議員）

〇鶴田琉太郎　議長　横手明峰中学校に発言を許可いたします。

15 番、酒井玲旺議員、16 番、最上留伊議員、17 番、谷口莉子議員。

〇１５番（横手明峰中学校　酒井玲旺議員）　横手明峰中学校の報告を始めます。報告内容は、「地域と共に歩む生徒会活動～学校創立 10 年目の取組～について」です。どうぞよろしくお願いします。

横手明峰中学校は今年度、開校 10 周年を迎えました。開校する前年度に東日本大震災があり、学校建設工事にも影響があったようだと、家族から聞いていました。震災当時の私は４歳。開校から 10 年という月日を重ね、雄物川、大森、大雄の各地域の伝統を引き継ぎながら、381 名の全校生徒は充実した学校生活を送っています。

さて、本校では合言葉「ＭＨＲ」を基本に、授業や部活動に励んでいます。この合言葉ＭＨＲは、Ｍｅｉｈｏ Ｈｅａｒｔ－ｗａｒｍｉｎｇ Ｒｅｌａｙｔｉｏｎｓｈｉｐの頭文字です。意味は、明峰生のＨｅａｒｔ－ｗａｒｍｉｎｇ、心があたたかくなる、Ｒｅｌａｙｔｉｏｎｓｈｉｐ、関わり合いです。授業、部活動、その他すべての活動の中で、お互いを思いやり、自他のよさを認め合う姿勢でそのような行動を進めようという宣言です。まさにこのＹ８サミットで推進する「創快宣言」は、私たちの合言葉ＭＨＲの原型ともいえます。

このＭＨＲを活用した今年度の生徒会活動を３つご紹介します。

１つ目は、雄物川、大森、大雄の各小学校でのあいさつ運動です。今年度は５回実施しました。明峰中生が朝に雄物川小、大森小、大雄小それぞれの母校で、登校する児童にあいさつ運動を行っています。この活動は、小学生とのコミュニケーションづくりだけでなく、地域の連携としても重要な活動となっています。いずれ中学校に進学する小学生にとっては、中学生の姿をイメージできる機会であり交流の時間となります。地域の方々にも活動に協力していただき、充実した挨拶運動ができました。コロナ禍の今年は、例年以上に挨拶の大切さやコミュニケーションを取り合うことのよさを改めて実感しました。

２つ目は、夏休み期間を利用した地域へのボランティア活動です。この活動にも、多くの明峰中生が参加しました。各地域の通学区生徒会を利用し、地区ごとにその地域のごみ拾い、清掃などの美化活動を行いました。例年であれば、地域行事の補助などのボランティアも実施しておりました。来年は地域行事が復活し、たくさんの観光客や地域の方々との交流ができることを期待しています。私たちがいつもお世話になっている地域、施設、そこで働く方々、小学生や保育園児など、たくさんの方々と共に奉仕活動をさせていただくことで、私たちのＭＨＲはより強い絆に変化し、学習やさまざまな活動への原動力になります。

最後に、明峰バディー活動について紹介します。バディーとは、縦割り学級で協働する活動のことで、各学年の同じ組同士が結束して、体育祭での応援をしたり、合唱コンクールの練習や委員会活動で、互いの活動を見合ったり、先輩から後輩への指導をしたりします。異なる学年が一つのチームとなって盛り上がり、先輩後輩の絆を築いていきます。この活動は、年間を通じて行われており、横手明峰中学校の文化の一つとなっています。

このように統合によって結成された横手明峰中学校は、コミュニケーションを大切に、思いやりと他者理解をすすめながら、地域の皆様に愛される中学生を目指しています。そして、横手に育てていただいているという感謝の気持ちを忘れずに、地域とのより深い絆と、ＭＨＲという合言葉のもとで、10 年目の生徒会活動を発展させていきます。また、美術の授業では、横手愛をテーマにしたポスター制作

に取り組んでいます。また、明峰祭に向けて、明峰中ＰＲＣＭというものもつくりました。これから、10 年目を迎えた明峰中は、地域とより関わり合い、地域活性化に近づいていけるような活動を取り組んでいきたいと思っています。

これで横手明峰中学校の報告を終わります。ありがとうございました。

○鶴田琉太郎　議長　これで、横手明峰中学校の実践報告を終わります。

ここで、議長を交代いたします。ここからは、後半の議長に選任された、３番、横手清陵学院中学校、藤田萌々香議長に議事進行をお願いいたします。

議長交代のため、暫時休憩いたします。

再開は２時 10 分といたします。

午後１時５９分　休　憩

午後２時１０分　再　開

○藤田萌々香　議長　後半の議事をスムーズに進行したいと思います。よろしくお願いします。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

実践報告を再開します。

日程第 10、横手南中学校の実践報告「校歌『ひとすじの道』と進むべき 51 年目の新たな南中について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇横手南中学校（鶴田琉太郎議員・藤井健佑議員・加藤望花議員）

○藤田萌々香　議長　横手南中学校に発言を許可いたします。

２番、鶴田琉太郎議員、８番、藤井健佑議員、９番、加藤望花議員。

○９番（横手南中学校　加藤望花議員）　今年度、横手南中学校は創立 50 周年の節目の年を迎えました。半世紀の伝統を受け継ぎ、新たな南中を築いていきたい。そして、そのために全校生徒が一致団結して、毎日の生活を鮮やかに彩っていきたいという願いを込めた「彩光～僕らが彩る新しい時代～」という生徒会テーマで今年度の活動を進めています。

まずはじめに、横手市中学校創快宣言の「認め合い」「感謝」に関わる南中生徒会の活動、ふわふわの木という活動について報告します。この活動は、全校生徒が葉っぱ型の用紙にメッセージを書き、木に模した大きな台紙に全校生徒分のメッセージが書かれた葉っぱを貼り付け、大きな木、つまりふわふわの木を作って掲示する活動です。記入するメッセージのテーマは、行事への意気込みや、日常の学校生活または行事等で見かけた仲間のよい行いや姿、大会へ出場する選手への激励メッセージなど、時期に合ったものを設定しています。

互いのよさや個性を認め合い、思いやりの心を大切にする意識、仲間への感謝の気持ちを素直に伝え

合う心を意識づけるとともに、南中生全体の一体感を生み出すために行っています。創快宣言の「認め合い」「感謝」とともに、南中生同士のつながりも強く感じられる活動にもなっています。

南中生徒会が大事にして続けてきた活動ですが、新たな風を吹き込みたいと考えています。これまでは生徒会からテーマを発信し、全校生徒からのメッセージを集めていましたが、テーマを絞らず、仲間や学校のよさや、地域の方と接して感じたよさなど日常のつぶやきを、自由に発信できる活動にしていくことで、よさの気づきを広げる活動にしていきたいと考えています。

褒めムービーとして、タブレットを活用している平鹿中の取り組みを、Ｙ８サミットの活動で知りました。このふわふわの木の活動にタブレットを活用することでより生徒同士がつながりを感じられる活動にしていくことができないか具体策を考えています。

○８番（横手南中学校　藤井健佑議員）　今年度、横手南中学校では、南中生同士のつながり、南中 50 年の歴史を築いてきた多くの先輩方とのつながりを強く実感する機会がありました。10 月 26 日に行われた開校 50 周年記念式典、それに続いて行われた記念フォーラムです。記念フォーラムは「南中の現在－過去－未来、校歌『ひとすじの道』に込められた想いを語る」というテーマで、南中卒業生の先輩や南中にゆかりのある方をお迎えして、校歌ひとすじの道に込められた思いを語り合いました。これからの新しい半世紀に、ひとすじの道を進む南中生の姿がどうあるべきか、目指すべき南中生の姿を共有し、決意を新たにしました。フォーラムでは、パネラーの方々から、ひとすじの道を力強く進むために必要なこととして、自己肯定感を高めること、自立を大切にすることを学びました。私はこの活動やフォーラムを通して、全国的にも数少ないタイトルのある校歌、ひとすじの道に込められたメッセージをしっかりと理解できました。特に、３番の歌詞にある、正義の歌をこれまで以上に声高らかに歌おうと強く思いました。この歌詞に誇りをもって堂々と歌える自分に成長していきたいと思います。

○９番（横手南中学校　加藤望花議員）　私たちにとって、とても大切な校歌ですが、ここまで深く考えたのは初めてでした。今回の活動を通して、校歌に込められたメッセージや願いを受け取ることができました。私が思うひとすじの道は、端正で勇敢な道です。卒業までの残りの数か月、そして、卒業後も校歌とともに、仲間とともに全力で進んでいきたいです。

○８番（横手南中学校　藤井健佑議員）　南中生が歩む『ひとすじの道』の途中にはたくさんの困難があるけれど、仲間と共にそれらを乗り越え、歌詞にある不屈の心であきらめず、そしてたじろがず、自分の望みや真実、正義に向かって真っすぐに進んでいきたいと気持ちを新たにしました。

○２番（横手南中学校　鶴田琉太郎議員）　生徒会では、50 周年にふさわしい、より端正な南中生を目指して、各専門委員会と協力して横手市中学校創快宣言の４つのテーマ「認め合い」「感謝」「あいさつ」「つながり」と校歌の歌詞のキーワードを関連させた活動を積極的に進めていきたいと考えています。

校歌に込められた南中生の目指すべき姿に加え、Ｙ８サミットでの経験を通して、横手市の中学生が目指すべき姿を学んでいます。これを南中に持ち帰り、新たな半世紀のスタート切った 51 年目の南中

が生徒の力でさらに発展するよう、生徒会として力を尽くしていきたいと思います。

以上で実践報告を終わります。

○藤田萌々香　議長　これで、横手南中学校の実践報告を終わります。

日程第 11、増田中学校の実践報告「『地域と共にある学校』を目指す私たちの取組について」を議題といたします。

報告を求めます。

◇増田中学校（田村日和議員・珍田凌太朗議員・黒坂翔汰議員）

○藤田萌々香　議長　増田中学校に発言を許可いたします。

18 番、田村日和議員、19 番、珍田凌太朗議員、20 番、黒坂翔汰議員。

○２０番（増田中学校　黒坂翔汰議員）　今年度、私たちは横手市中学校創快宣言の「つながり」を大切にした取組を数多く行ってきました。私が目指してきたのは、学年や学級を越えたつながりのみならず、地域の方々とのつながりを今まで以上に深めていこうという取組です。

私たちの学校は市内の他の中学校と比較すると規模の小さい学校です。私たちはこの規模の小ささを自分たちの長所であると考えています。生徒数が少ないからこそ、学年や学級の枠を超えて互いに協力していこうという意思が強くなると思います。例えば、清掃活動です。増田中では学級や学年ごとに清掃場所を担当するのではなく、縦割りのグループで清掃を行っています。このような縦割りの活動は体育祭や球技大会などの様々な学校行事でも行われています。どの活動においても、上級生が下級生をリードしながら全員で協力して活動しています。この活動を通して、私たちは自分の立場や役割を理解しながら行動することの大切さを学んできましたし、学年を越えた強い絆づくりをすることができました。

○１９番（増田中学校　珍田凌太朗議員）　また、生徒数が減少してきているからこそ、私たちが学校の伝統をつなげなければという強い思いがあります。増田中学校生徒会には、「K・A・O」というスローガンがあります。Kは校歌、Aはあいさつ、Oは応援です。学校生活の様々な場面で相手の心に響く校歌やあいさつ、応援を実践してきました。私たちはこの「K・A・O」に誇りをもっています。これまで継承してきた中学校での取組に加え、今年度は小学生と一緒に増田小中であいさつ運動に取り組むことができました。

学年や学級を越えたつながり、学校の伝統の継承の他に、今年度はコミュニティ・スクールモデル校として、地域とのつながりを重視した活動に例年以上に取り組んできました。

こちらのパネルをご覧ください。今年度、増田中学校では、増中創造活動として、地域との協働活動に取り組もうと、年度初めにこのような計画を立て、活動してきました。昨年から続いている新型コロナウイルスの影響により実施できなかったものもありましたが、地域と関わる取組を数多く行うことができました。これらの活動によって、私たちは地域から多くのことを学び、また地域について新たな気づきがありました。地域とのつながりを深めていくことが、今後さらに大切になると考えています。

〇１８番（増田中学校　田村日和議員）　今年度、増田中学校は 50 周年の節目の年を迎えました。先月の 22 日には記念式典が行われ、増田中学校のこれまでの歩みを振り返るとともに、改めて地域とのつながりが深い学校であることを私たちも実感しました。

増田中学校は地域と共にある学校です。今後も地域とのつながりを重視した取組を続けていきたいと思います。

以上で報告を終わります。

〇藤田萌々香　議長　これで、増田中学校の実践報告を終わります。

以上ですべての学校の実践報告が終了しました。

◎Ｙ８から横手市への提案

〇藤田萌々香　議長　次に、Ｙ８から横手市への提案を行います。

日程第 12、増田中学校からの提案「３Ｃ(Ｃｏｎｎｅｃｔ　ｗｉｔｈ　ｔｈｅ　Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ　ｔｏ　Ｃｏｎｔｒｉｂｕｔｅ)活動の拡充について」を議題といたします。

代表者の説明を求めます。

◇増田中学校（田村日和議員・珍田凌太朗議員）

〇藤田萌々香　議長　増田中学校、18 番、田村日和議員に発言を許可いたします。

18 番、田村日和議員。

〇１８番（増田中学校　田村日和議員）　増田中学校から、横手市の中学生がそれぞれの地元の地域で活動する「３Ｃ活動」の拡充に向けてを提案します。３Ｃ活動とは、Ｃｏｎｎｅｃｔ、つながる、Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ、地域、Ｃｏｎｔｒｉｂｕｔｅ、貢献するの３つの単語の頭文字をとっています。私たち中学生が、自分たちが住む地域に貢献するために地域とのつながりを大切にしていこうという活動のことです。

先程の報告にもありましたように、増田中学校では横手市中学校創快宣言の「つながり」に基づいて学級、学年を超えたつながりを大事にする取組を進めてきました。さらに、今年度は、校内だけではなく地域の方々とつながる機会も多くありました。増田中学校が、コミュニティ・スクールのモデル校となり、地域の方々とのつながりを深めることによって、まちづくりに関わる活動を今まで以上に幅広く展開しています。

例えば、３年生の社会科の学習では、地元の史跡である吉乃鉱山へフィールドワークに行き、地域の方からその歴史について教えていただきました。２年生は地域の農家での農業体験活動を行いました。また、総合的な学習の時間には、生徒それぞれが設定したテーマに基づいて校外学習を行い、商店や観光施設をはじめとした地域の様々な場所を訪問し、調査活動をしました。私たちのまちづくりに関わる活動は、先日、新聞でも紹介していただきました。この他にも、盆踊りをテーマとしたグループは地域

の方を講師にお招きして学校で踊りを教わったり、太鼓をテーマとしたグループは、先日行われたりんごまつりに参加し、演奏を披露したりしました。

これらの活動において、地域の方々と共に活動することにより、私たちは地域とつながることの大切さを感じました。どの活動においても、私たちが考えている以上に増田地区には多くの魅力ある素材があることに気づきました。また、その魅力ある素材を守り伝えようとする方々や、増田を盛り上げようと様々な企画をしている方がいることにも気づきました。

一方で、増田地区を支える多くの人が高齢の方々であることも分かりましたし、盆踊りや太鼓、八木にんにくや吉乃鉱山など、増田では知られているものの、他の地域ではあまり知られておらず、伝統の継承や産業振興などの面で大きな課題があることも分かってきました。

これらの課題の解決のためには、自分たち中学生も関わっていく必要があることを実際の体験を通して強く感じました。横手市民が一体となって行う協働の取組も大事です。それと同時に、自分たちの住む身近な地域において中学生が地域の方々と共に活動していくことも、地域を盛り上げていく上で、非常に大切なことであると考えます。そして、地域と密着した活動によって、私たち自身も多くのことを学んだとともに、増田への愛着がより一層深まったように思います。このような思いは、今後の地域を盛り上げていく上で最も大切なことではないかと考えます。

さらに、今年度は、地域の歴史、産業、商店街の情報などについて地域の方から教えていただいことを基に、それを小学生に伝えたり、観光客にＰＲするための看板作りに携わったりと、中学生でも地域のために役に立つことができるという確かな手ごたえを感じています。

例年、増中生は、蔵の日に蔵の案内ボランティアを行ってきました。今年は開催されなかったものの、その代わりに地元商店街を盛り上げるために灯籠づくりに取り組みました。これまでの地域の方々から教えていただいたり、参加させていただいたりした活動に加えて、地域で行われる行事やイベントに、中学生も企画の段階から参加していくことはできないかと考えています。企画の段階でアイデアを出したり、準備や片付けも含めた運営面にも携わったりと、地域での活動に中学生が参画することができれば、地域のよさを認識し、今まで以上にアピールできるのではないかと考えます。何より、幅広い世代が交流することで地域が活気づくのではないかと考えています。

今、横手市では学校統合が進み、学区が広範囲にわたるようになった中学校が多くあります。Ｙ８サミットの話合いの中で、地域に貢献したいけれど、中学生がそれぞれ自分の住む地域のために活動できることを自分の力で見つけることが難しいという状況にあることを知りました。伝統文化の継承に関心をもったとき、どのような方法で関わることができるのか、地域の行事の運営に自分たちも参画したいと考えたときにどんなことが可能なのかなど、思いはあってもそれを中学生の力だけで実現することは困難です。

これらのことから、私たち中学生が地域に入っていきやすい仕組みが必要であると考えます。私たち中学生の生活の場は、ほとんどが学校です。私たちは、今、学校を通して地域とつながり合っています。

学校と地域の様々な組織がつながり合うことが必要不可欠だと考えます。

今年度、増田中学校はコミュニティ・スクールのモデル校となったことにより、地域コーディネーターを配置していただきました。これにより、地域コーディネーターの方を通じて地域の方を紹介してもらい、地域とつながる取組を今まで以上に行うことができました。市の施設や地区交流センターをはじめ、商店街、企業、地域の方など多くの機関や人とつながることによって、私たちは取り組みたいと考えたことが実現でき、さらに地域の役にも立つことができたのではないかと感じています。

令和４年度からは、横手市全域でコミュニティ・スクールの取り組みが始まると伺っています。そこで、このような地域とつながる取組をさらに推し進めていくために、地域コーディネーターの拡充と活用の推進を進めていただけないでしょうか。例えば、各地域ごとだけではなく、各小中学校へ地域コーディネーターを配置し、月１回など定期的に学校とコーディネーターの方との打合せをすることなどができれば、中学生がさらに社会とつながるのではないかと考えます。そして、各地区において中学生が自分の住む地域に貢献することで、結果的に横手市全体の活性化につながるのではないかと考えます。中学生が地域の方々の協力をいただき、地域のために活動することで地域を盛り上げていけるよう、お願いいたします。

○藤田萌々香　議長　教育長。

○伊藤孝俊　教育長　地域コーディネーターのご質問でございましたので、私のほうから答弁をさせていただきます。

まず冒頭、増田中学校の生徒の皆さんからご質問いただきましたので、増田中学校について最近大変うれしいなと思ったことを１つご紹介させていただきます。横手市の小中学校では、いわゆるＮＩＥ、新聞を使った教育活動の推進を広く図っています。中学校の皆さんにおいては、様々な新聞を手にすることができるようになってますよね。そんな中、増田中学校では、新聞切り抜きコンクールにおいて、４年連続学校賞をいただきました。そんな記事がつい最近、載っておりました。４年連続ということで、私も大変、今年も連続するのか期待をして記事が載るのを待っていましたが、４年連続、大変にうれしいなと思いました。また来年もぜひ頑張っていただければなと思います。

小さい学校を強みにしているお話もしてくれました。まさに、そんなところにも増田中学校の魅力が、いいところが表れたのかなと思い、ご紹介させていただきました。

それでは、答弁させていただきます。まず、地域の活動に参画したいという強い思いを抱いていただいたこと、また、どうしたら中学生が地域とつながることができるんだろうかという疑問を持っていただいたことについては、大変いいところに気が付いてくれたなと思って感心をいたしました。

ご提案をいただきました、地域コーディネーターの拡充と活用の推進についてですが、市では学校・家庭・地域が総ぐるみで未来を担う子どもたちの成長を支える体制を整え、推進するため、地域と学校とを繋ぐ地域コーディネーターを、実は、平成 28 年度に開校した横手北小学校に初めて配置をいたしております。以来、小学校を主に毎年拡充をし、中学校については、その中学校区にある小学校のコー

ディネーターが兼務をしており、増田中学校には、増田小学校に配置となった方に平成 30 年より担当していただいております。現在は、市内小中学校の約３分の２である 13 校に配置しており、令和４年度からのコミュニティ・スクール導入に合わせ、本年度末までに市内全ての小学校に配置し、中学校も兼務していただく予定になっております。

これにより、これまで学校とつながりがなかった地域の方々ともつながることが可能となり、幅広い世代との交流が行われ、皆さんの活動も多様化することで、地域が活気づくことが期待されます。

なお、地域コーディネーターの勤務形態につきましては、学校と協議の上決定しており、週１回定期的に出向く形態の学校もあれば、協力依頼があった際に学校に出向く形態もございます。増田中学校については後者の形態となりますが、生徒の皆さんからご提案いただきました、月１回程度は訪問し協議する方向で今後は進めていきたいと思います。

今年度は、増田地区と十文字地区の小中学校４校をモデル校とし、令和４年度からの全市的なコミュニティ・スクール導入に向け、取組を進めております。増田中学校はモデル校として、たくさんの地域の方々と連携し、積極的に地域づくり活動を展開されており、その活動は、先ほどの提案にもありましたが、新聞にも大変大きく紹介されております。コミュニティ・スクール導入をきっかけに、地域コーディネーターとの連携も活発となり、地域との充実した活動へとつながっていることを大変うれしく思っております。

市では、公民館や地区交流センター運営協議会など地域で主体的に活動している組織や団体、または企業、また個人と学校とが連携・協働し、地域とともにある学校づくりと持続可能な地域づくりを目指す、横手市版コミュニティ・スクールを推進しております。増田中学校の取組は、まさにその先駆けであり、来年度から全市的に本格導入され機能することによって、皆さんが思い描く地域の活性化がなされるものと考えております。今後も多彩な地域づくり活動を展開し、地域に貢献してくれることを大いに期待しております。

皆さんが、お話の中でございました地域の活動に企画・運営から参加したい、そんな思いも大事にしていただいて、さらに頑張っていただくようご期待申し上げます。

○藤田萌々香　議長　18 番、田村日和議員。

○１８番（増田中学校　田村日和議員）　ご回答ありがとうございます。私たちはあと少しで卒業という立場ではありますが、これまで続けてきた地域とのつながりを重視した活動は後輩が受け継ぎ、続けていきますのでこれからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

○藤田萌々香　議長　これで、増田中学校からの提案を終わります。

日程第 13、平鹿中学校、横手南中学校、横手明峰中学校からの提案「認め合い・ＹＯＫＯＴＥ拡大バージョン～横手のよさ・魅力を発信！～について」を議題といたします。

代表者の説明を求めます。

◇平鹿中学校（貴俵明凛議員）

〇藤田萌々香　議長　平鹿中学校、５番、貴俵明凛議員に発言を許可いたします。

５番、貴俵明凛議員。

〇５番（平鹿中学校　貴俵明凛議員）　平鹿中学校、横手南中学校、横手明峰中学校から、横手市中学校創快宣言の「認め合い」や「感謝」に基づいて活動してきたことを、横手市のよさをＰＲする活動に発展させることを目指して、「認め合い・ＹＯＫＯＴＥ拡大バージョン～横手のよさ・魅力を発信！～」を提案します。

創快宣言に基づいたこれまでの活動の中から、互いのよさを認め合うこと、そしてそれを伝え合うことで互いのよさや個性が生かされることや、それによって人と人とのつながりも深くなることを実感してきました。この活動を校内だけではなく、地域のために役立てたいというのがこの提案です。

この夏、私たちは地域に貢献しようとがんばる企業を訪問し、その取組について学びました。そして、その企業の取り組みを生かして秋田を活性化するためのアイデアを考案し発表する機会がありました。この発表にあたり、私たちは、はじめに横手市のよさや魅力はどのようなものがあるか考えました。私たちの考えにあったのは、豊かな自然、伝統行事、特産物、人のあたたかさなどですが、それ以上のことを出し合うことはなかなかできませんでした。

その後、地元の企業を訪問し、自分たちでも地域の活性化策を考える中で、横手市には自分たちの知らないよさや魅力がたくさんあること、そして、訪問した企業の方々のように、横手市に貢献しようと努力している人がたくさんいることを知りました。横手市外の方だけではなく、横手に住んでいる私たちでも、横手にはたくさんのよさや魅力があることに気づいていない場合が多くあるのではないかと思います。横手市のよさや魅力は、市報、よこてｆｕｎ通信、市のホームページ、かまくらFM、よこてれび、Ｙｏｋｏｔｔｅｒなどの手段で発信されていますが、現在、その成果や課題として、どのようなことがあげられているのかお伺いしたいと思います。

また、市議会議員の方々との懇談で、夜に街の明かりが少ない、農業中心、若い人が少ないといった地域の課題であり、マイナスなイメージをもたれがちなことについて、見方を変えてよさや特色として生かす方法を考えてほしいというご意見をいただきました。

これらのことから、各中学校で取り組んできたことを生かし、地域のために中学生としてできることとして、私たちが横手市のよさや魅力を発信することを提案します。具体的には、各中学校がそれぞれの地域のよさや魅力をＰＲする動画を作成したいと考えています。伝統行事や観光名所などの知名度の高いものはもちろんのこと、住んでいるからこそ感じるよさ、地域の方々が努力して開発を進めているものなど、中学校があるそれぞれの地域のよさや魅力を発信したいと思っています。それを市のホームページに掲載したり、市報にＱＲコードを掲載したりしていただくなどと、横手市のために活用していただくことはできないでしょうか。

また、動画以外でも、横手市の行事やイベント、生活の中などで中学生が感じた横手市のよさを各学

校で集め、横手市のＳＮＳを活用した情報発信の中で、中学生が発信するコーナーなどをつくっていただくことはできないでしょうか。

これらの発信にふれることで、横手に来てみたいと考える方々が増え、集客につながると思います。また、私たち中学生を含めた横手市内の方々にとっては、当たり前すぎて意識していなかったことが、実は横手市のよさや魅力であるという新たな気づきにつながり、そしてその気づきが、ふるさと横手を愛おしく、誇らしく思うことにもつながっていくと考えます。

以上で私たちからの提案を終わります。

○藤田萌々香　議長　市長。

○髙橋大　市長　貴俵さんより、認め合い・ＹＯＫＯＴＥ拡大バージョン～横手のよさ・魅力を発信！～について、るるお尋ねでございました。質問の中にありましたとおり、横手には豊かな自然、伝統行事、特産品、人のあたたかさなど、素晴らしい魅力がたくさんあります。これらは私たちの生活に根付いてございまして、その魅力に気づかず過ごしている方も少なくないと感じております。

例えば、横手やきそばは昔から当たり前に当地で食べられてきたものであり、横手の魅力であると気づかずにおりました。外からの目線で横手を見た人の声によりまして、特徴ある横手ならではの大きな魅力であると気づくことができました。

その後、横手やきそばを横手の魅力の１つとして市内外へ積極的にＰＲすることで、今では全国的に有名になりまして、たくさんの方が横手やきそばを求めて足を運んでくれております。この取り組みが、多くの方に横手を知っていただく、横手に来ていただくきっかけにもなったところでございます。議員の提案にもありました、見方を変えてよさや特色として生かすことの成功事例でございまして、魅力に気づくことや積極的にＰＲすることの大切さを私たちに教えてくれました。

現在、市では、こうした素晴らしい横手の魅力を市内や市外、海外の多くの方々に知ってもらい、横手に住んでよかった、横手に行ってみたい、応援したいという横手ファンにつなげるため、市報、よこてｆｕｎ通信、市のホームページ、よこてかまくらＦＭ、よこてれび、各種ＳＮＳのほか首都圏や大阪で出前かまくら、物産展などを活用し、市の魅力を発信しております。成果といたしましては、市民の皆様からは、「改めて横手の魅力に気づいた」「自分でも魅力を探したい」などの声を、市外の方々からは「横手に行ってみたい」「応援している」などの声をいただいております。また、物産展では「よこてｆｕｎ通信を読んで来た」などと来場者の方々との会話が弾むこともありました。様々な手段による魅力発信が、地域の活性化や交流に結び付いていると感じているところでございます。

一方、課題ではございますが、横手の魅力を若い世代にもっと知ってもらうことも必要と捉えてはございます。この課題解決の１つの方策として、首都圏から３名の方を地域おこし協力隊として採用いたしまして、若い世代の情報に対するニーズの把握や、様々な横手の魅力の掘り起こし、若い世代に届く手段での市内外への発信といった活動を行ってもらっています。隊員が皆さんからご意見を伺うことがあるかと思いますので、その際はよろしくお願いします。

議員からご提案いただいた各中学校で作成した動画を市のホームページで紹介することや、市報にＱＲコードを掲載すること、また各中学校で集めました情報を各種ＳＮＳで紹介することは、いずれも実現できるものと思います。10 代の目線で発見した横手の魅力は、若い世代の共感を得ることができる魅力であり、大人の目線では気づくことが難しい魅力だとも考えます。また、各中学校で作成する地域の良さや魅力をＰＲする動画は、きっと同世代にも思いが伝わる動画になると思っております。若い世代にもっと横手の魅力を知ってもらうためにも、とてもよい取組になると思いますので、今後の皆さんの積極的な取り組みに期待しております。

私は常々、横手愛について、横手に住んでいてもいなくても、横手を思う気持ちがあり、できる範囲で様々な関わり方で横手を応援することであり、横手愛が持続可能なまちづくりにつながると申し上げております。また、議員がおっしゃる、ふるさと横手を愛おしく、誇らしく思う気持ち、人と人とのつながりも、横手愛にとって大切なことの一つであると考えます。議員の皆さんの中には、今後、進学や就職で横手を離れる方もいるかもしれませんが、横手での暮らしの中で醸成された横手愛を持ち続けてほしいと思っております。皆さんとともに、横手愛を育て、活気ある横手市をつくってまいりたいと思いますので、議員皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○藤田萌々香　議長　５番、貴俵明凛議員。

○５番（平鹿中学校　貴俵明凛議員）　ご回答ありがとうございました。中学生らしい若い世代の目線で横手のよさ、魅力を発信していくことをこれからも大切にしていきたいと思います。ぜひ私たちを横手愛のために、私たちもこれからも学校だけではなくて、学校外の地域の方々とも協力していきたいと思います。ありがとうございました。

○藤田萌々香　議長　これで、平鹿中学校、横手南中学校、横手明峰中学校からの提案を終わります。

日程第 14、十文字中学校、横手北中学校、横手明峰清陵学院中学校からの提案「「Ｙ８発！横手を元気にキャンペーン」の実施について」を議題といたします。

代表者の説明を求めます。

◇十文字中学校（髙橋英佑議員）

○藤田萌々香　議長　十文字中学校、21 番、髙橋英佑議員に発言を許可いたします。

21 番、髙橋英佑議員。

○２１番（十文字中学校　髙橋英佑議員）　十文字中学校、横手北中学校、横手清陵学院中学校から、「Ｙ８発！横手を元気にキャンペーン」を提案します。これは、横手市中学校創快宣言の「あいさつ」や「感謝」を基に、今まで各学校が実践してきたことをＹ８の全中学校が合同で行っていこう、そして、その活動をさらに横手市全体に広げていこうというものです。学校の枠を超えて、地域を巻き込んで、横手市全体を元気にする活動にしていきたいと考えています。私たちが生まれ育ったこの横手市を、これかも生活していくこの横手市をみんなで支え合う愛にあふれた元気なまちにするための以下の２つの

活動を提案します。

１つ目は、Ｙ８の横手市の中学校７校が一斉にあいさつ運動を行う、横手愛グリーティングＤＡＹを設定し、その日に横手市全体であいさつ運動を展開していこうというものです。先ほどまでの報告にもありましたように、各中学校では創快な学校生活をつくるために、どの学校でもあいさつ運動に取り組んできました。従来、学校ごとに行ってきたこの運動を新たに小中合同で実施するようになると、小中の連携が広がるとともに、小学生の挨拶の向上や関わり合いの面での効果が表れてきていると伺っています。この運動で得た実感や成果を、横手市全体に波及させることができないかと思い、まちを元気にするあいさつ運動の拡大を考えました。

横手市では、人口減少や少子高齢化が進み、地域の活性化をどのように図っていくかが課題として挙げられます。さらには、コロナ禍で状況がより深刻化しているように思えます。この状況を少しでも打開し人々との交流の機会を増やすために、まずは明るい挨拶を交わすことがその一助となるのではないでしょうか。また、朝の清々しい挨拶は、市民の一日の活力の源になると思います。明るくさわやかな挨拶で地域の元気を創出し、地域で暮らす人たち同士の関係性がよくなっていく。横手市がそんなまちになることを望みます。このあいさつ運動の対象は小中学生に限らず、地域住民、横手市全体を巻き込んだ活動にしていきたいと考えています。横手愛グリーティングＤＡＹの日には、横手市民が挨拶の大切さに目を向け、意識して明るい挨拶を交わしてほしいと思います。そして、その日が横手市民としてのつながりを感じ合うきっかけとなる日にしていくことを目指します。

そのためには、あいさつ運動を行う範囲を広げていく必要がありますが、問題になるのが、私たち中学生が直接出向くことのできるエリアや協力をお願いできる機関は、どうしても限られてしまうということです。そのため、私たち中学生が直接お願いすることの難しい企業や、様々な機関への広報をお願いできないでしょうか。また、地域の方と共にあいさつ運動を行える場の提供にご協力いただけないでしょうか。中学生が企画する、この横手愛グリーティングＤＡＹの日に、自分たちから積極的に大人の方々と挨拶を交わすことによって、私たち中学生自身も挨拶の在り方を考える契機になると思います。また、この活動が引き継がれることによって、私たちが大人になり、未来の横手で暮らすとき、挨拶が地域に根付き、挨拶がごく自然に交わされる活気にあふれた明るい横手市になっているのではと考えます。その横手市で、将来私たちも自らがよりよいまちをつくっていく一員になることができればと思います。

２つ目の提案は、横手愛クリーンアップＤＡＹの設定です。通学前や通学の途中などに自分の可能な方法で横手市の小中学生全員でクリーンアップをしようという提案です。また、あいさつ運動と同様に、地域住民の方々、横手市にある企業で働いている方々などにも協力をお願いし、横手市全体でクリーンアップに取り組む日を設定するというのはいかがでしょうか。これまで横手地区では、横手川等クリーンアップが横手地区一斉の活動として開催されており、小中学生も参加して地域の方々と共に環境美化に取り組んできました。多くの市民が参加してきた行事ですが、小中学生については横手川付近に住む

児童生徒の参加が中心でした。このような活動を横手市全体の小中学生が関わる活動にしていくことはできないかと考えました。また、普段私たちが何気なく登校している道路や公園などの公共施設でごみが捨てられたり、散乱したりしている現状が見られます。道路にたばこの吸い殻が捨てられていることも少なくありません。各学校で行っているクリーンアップ活動だけではなく、私たち中学生が自分たちの住む地域のよりよい環境づくりに自ら積極的に関わるとともに、地域の大人の方々と協働して取り組む必要があると考えています。

そのために、中学生では声を届けることのできない企業、各種機関への広報を横手市にお願いしたいと思います。また、ラジオ放送や回覧板等で協力依頼を地域に発信していただくことはできないでしょうか。この日に、横手市にいる人、全員で取り組むと決めることで、横手市の環境に対する意識が高まるとともに、地球規模でのＳＤＧｓも意識することができると思います。さらに、この取組はもちろん横手愛につながっていくと考えます。コロナ禍で伝統行事や様々なイベントが中止となり、横手市民が共に活動する機会が減っている中で、改めて市民が協働してつながりを強めていく、そのきっかけにもなるのではないかと考えます。

私たちが各学校で取り組んできたことを学校同士で協働したり、さらに地域と協働したりすることで私たち中学生も一市民として少しでも横手市民に元気を届け、活気のあるまちづくりの力になれるのではないかと思います。この強い思いから、私たちは以上２つの活動を提案します。

○藤田萌々香　議長　市長。

○高橋大　市長　高橋議員より２つ、横手愛グリーティングＤＡＹの設定、そしてクリーンアップＤＡＹの設定、２点お尋ねでございました。答弁いたします。

議員の皆様よりご提案のあった市内７中学校が一斉に行う横手愛グリーティングＤＡＹによるあいさつ運動の拡大は、まさに地域住民とのコミュニケーションのきっかけとなり、関わりを通し人と人とのつながりを深め、よりよい地域社会づくりと明るく健やかな子どもたちの育成にもつながるものでございます。

しかしながら、このようなご提案があったということは、我々大人が日頃から家庭や職場、あるいは地域において挨拶を十分にしてきたつもりが、皆様が取り組んできたような挨拶ができていなかったことの現われでもあり、我々大人も挨拶について見つめ直す機会であると感じております。このあいさつ運動の場の提供につきましては、例えば、年４回実施されております交通安全運動期間において、登校する小中高生、街頭指導にあたる交通指導隊と保護者の方々、近所の方が互いにおはようの挨拶を交わす運動が考えられます。また、夏休みのラジオ体操を活用し、中高生や地域の方々にも健康増進の一環として参加してもらいながら、あいさつ運動、あるいはチャレンジデーなど地域住民が集まる機会をとらえ、地域住民が行うチャレンジに参加しながらあいさつ運動を行うといった様々な場が考えられます。

いずれにいたしましても、実施に際しましては、ご相談いただければ、市民一人ひとり、また地域の様々な団体へ呼びかけるなど、可能であると考えておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、横手愛クリーンアップＤＡＹについてでございます。ご提案の中で、例年６月に横手地域で実施している横手川等クリーンアップについてのお話がありました。昨年度と今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため中止しましたが、例年は横手北中学校の生徒の皆さんを中心にご協力いただいております。この活動は昭和 47 年当時まで遡り、当時のスポーツ少年団の児童によるクリーンアップが始まりで、おおよそ 50 年の歴史があります。現在は、児童生徒の皆さんのほか、市民はもちろん、地元企業の皆さんにも積極的に参加をいただいており、参加人数は約 4,000 人にも上っております。

一方、横手地域以外は、県のあきたクリーン強調月間に合わせ、４月に実施されており、地域幹線道路を対象としたクリーンアップが行われています。現状では地域ごとに実施日が違うことから、これら全市内のクリーンアップ実施日を統一することで、ご提案にありました全市一斉クリーンアップは可能と考えております。今後、関係機関や団体と調整を図り、来年度の実現に向けて取り組んでまいります。周知方法につきましては、各小中学生を含む全市民および企業に対し、市報・ラジオ・回覧板等で参加の呼びかけを行うほか、学校単位でも参加をお願いしてまいりますので、議員の皆さんからも生徒会などを通じ、参加の呼びかけをお願いいたします。

まずは、来年度、全市一斉クリーンアップの日を設け、これを足掛かりとして定期的に実施する横手愛クリーンアップＤＡＹの実現に向け、また、中学生の皆さんの頑張りが住民や事業者を巻き込み、環境改善を通じて地域の一体感を醸成し、地元愛を育む活動の契機となれるよう、準備を整えてまいりたいと思います。

市内の中学校生徒の皆様におかれましては、地域活動に積極的に参加していただき、全市民に元気を届ける中心人物として、大いに活躍いただけることを願っております。

ご提案ありがとうございました。

○藤田萌々香　議長　21 番、髙橋英佑議員。

○２１番（十文字中学校　髙橋英佑議員）　提案を聞いていただき、ありがとうございました。これから活動していくにあたり、私たち中学生も、一市民として地域社会とのつながりを大切にしながら元気なまちづくりに尽力していきます。ですので、どうぞよろしくお願いします。本当にありがとうございました。

○藤田萌々香　議長　これで、十文字中学校、横手北中学校、横手清陵学院中学校からの提案を終わります。

◎閉会の宣告

○藤田萌々香　議長　以上で、本日の日程は全部終了いたしました。

これで令和３年Ｙ８サミット創快横手市議会を閉会いたします。大変お疲れ様でした。

午後３時１４分　閉　会

この会議録の内容に間違いないことを確認し署名します。

横　手　市　議　会　議　長　　寿松木　　　孝

Ｙ８サミット創快横手市議会議長　　鶴　田　琉太郎

Ｙ８サミット創快横手市議会議長　　藤　田　萌々香

Ｙ８サミット創快横手市議会議員　　田　村　日　和

Ｙ８サミット創快横手市議会議員　　髙　橋　英　佑

参 考 資 料

〇令和３年　Ｙ８サミット創快横手市議会

実践報告・Ｙ８提案

令和３年Ｙ８サミット創快横手市議会
実践報告・提案要旨

■ 期　日　　令和３年１１月１０日（水）

■　「横手市中学校創快宣言」に基づく各校の実践報告 の順序

順番	学校名	議席番号	議員名	頁
1	十文字中学校	２１番	髙　橋　英　佑　議員	3
		２２番	糸　井　遥　斗　議員	
		２３番	梅　津　茉　歩　議員	
2	横手清陵学院中学校	１０番	鎌　田　渉　吾　議員	3
		３番	藤　田　萌々香　議員	
		１１番	太　田　陽　朗　議員	
3	平鹿中学校	５番	貴　俵　明　凜　議員	3
		６番	戸　田　奏　議員	
		７番	清　水　滝之進　議員	
4	横手北中学校	１２番	竹　原　志　信　議員	3
		１３番	髙　橋　優　太　議員	
		１４番	島　田　果　凜　議員	
5	横手明峰中学校	１５番	酒　井　玲　旺　議員	4
		１６番	最　上　留　伊　議員	
		１７番	谷　口　莉　子　議員	
6	横手南中学校	２番	鶴　田　琉太郎　議員	4
		８番	藤　井　健　佑　議員	
		９番	加　藤　望　花　議員	
7	増田中学校	１８番	田　村　日　和　議員	4
		１９番	珍　田　淩太朗　議員	
		２０番	黒　坂　翔　汰　議員	

■　Ｙ８から横手市への提案 の順序

順番	学校名	議席番号	議員名	頁
1	増田中学校	１８番	田　村　日　和　　議員	5
2	平鹿中学校	５番	貴　俵　明　凛　　議員	6
3	十文字中学校	２１番	髙　橋　英　佑　　議員	7

■　「横手市中学校創快宣言」に基づく各校の実践報告

１．十文字中学校

２１番　髙　橋　英　佑　議員
２２番　糸　井　遥　斗　議員
２３番　梅　津　茉　歩　議員

【つながり】を大切にした十文字中学校の取組について

２．横手清陵学院中学校

１０番　鎌　田　渉　吾　議員
３番　藤　田　萌々香　議員
１１番　太　田　陽　朗　議員

互いに認め合い、一人一人が活躍するための取組について

３．平鹿中学校

５番　貴　俵　明　凛　議員
６番　戸　田　奏　議員
７番　清　水　滝之進　議員

人と人とのつながりを深める平鹿中の取組について

４．横手北中学校

１２番　竹　原　志　信　議員
１３番　髙　橋　優　太　議員
１４番　島　田　果　凛　議員

【あいさつ】【つながり】を意識した取組「全校クリーンアップ・あいさつ運動～北中プライド・地域への誇り～」について

５．横手明峰中学校

１５番　酒　井　玲　旺　議員
１６番　最　上　留　伊　議員
１７番　谷　口　莉　子　議員

地域と共に歩む生徒会活動～学校創立 10 年目の取組～について

６．横手南中学校

２番　鶴　田　琉太郎　議員
８番　藤　井　健　佑　議員
９番　加　藤　望　花　議員

校歌『ひとすじの道』と進むべき 51 年目の新たな南中について

７．増田中学校

１８番　田　村　日　和　議員
１９番　珍　田　凌太朗　議員
２０番　黒　坂　翔　汰　議員

『地域と共にある学校』を目指す私たちの取組について

■　Ｙ８から横手市への提案～各校の取組を地域に役立てるために～

１．増田中学校

〔説明者代表〕　増田中学校　１８番　田　村　日　和　議員

「３Ｃ(Connect with the Community to Contribute)活動」の拡充について

横手市の中学生が、それぞれの地元の地域貢献をするために、地域とのつながりを大切にしていくことをめざして活動する「３Ｃ（Connect with the Community to Contribute）活動」の拡充に向けてを提案する。

１、地域コーディネーターの拡充と活用の推進

増田中学校は、横手市中学校創快宣言の【つながり】に基づいて、学級、学年を超えたつながりを大事にする取組を進めてきた。今年度は、コミュニティ・スクールのモデル校となり、地域の方々とのつながりを深めることによって、まちづくりに関わる活動を今まで以上に幅広く展開しており、校内だけではなく地域の方々とつながる機会を多く持つことができた。地区交流センターをはじめ、商店街、企業など多くの機関や人とつながることによって、私たちが取り組みたいと考えたことが実現でき、さらに地域の役にも立つことができたのではないかと感じている。

令和４年度からは、市全域でコミュニティ・スクールの取組が始まると伺っている。地域とつながる取組をさらに推し進めていくために、地域コーディネーターの拡充と活用の推進をしていただきたい。中学生が社会とさらにつながることができ、各地区において自分の住む地域に貢献することで市全体の活性化につながるのではないか。

また、授業や校外活動を通して、増田地域には私たちが思っている以上に魅力ある素材が多くあること、その素材を守り伝えようとする方々や、地域を盛り上げようと様々な企画をしている方がいることにも気付くことできた。

一方で、地域を支える多くの方々が高齢であることや、魅力ある素材があるにも関わらず、他の地域では知名度がないものもあり、伝統の継承や産業振興などの面で大きな課題があることも分かってきた。これらの課題の解決のためには、自分たち中学生も関わっていく必要があることを強く感じた。これからは私たちも企画段階から参画していくことはできないだろうか。運営面にも携わることができれば、地域のよさを再認識し、今まで以上にアピールできるのではないかと考える。何より、幅広い世代が交流することで地域が活気づくのではないか。

Ｙ８サミットの話合いの中で、地域に貢献したいという思いはあっても、それを私たちの力だけで実現することは困難であることを知った。中学生が地域の方々の協力をいただき、地域のために活動することで地域を盛り上げていけるよう私たち中学生が地域に入っていきやすい仕組みづくりと、学校と地域の様々な組織がつながり合うことが必要不可欠だと考える。

２．平鹿中学校　横手南中学校　横手明峰中学校

〔説明者代表〕　平鹿中学校　５番　貴　俵　明　凛　議員

認め合い・ＹＯＫＯＴＥ拡大バージョン～横手のよさ・魅力を発信！～について

横手市中学校創快宣言の【認め合い】や【感謝】に基づいて活動してきたことを、横手市のよさをＰＲする活動に発展させることをめざし、「認め合い・ＹＯＫＯＴＥ拡大バージョン～横手のよさ・魅力を発信！～」を提案する。

１、横手市の魅力発信に対する中学生の関わり

創快宣言に基づいたこれまでの活動を通して、互いのよさを認め合うこと、そしてそれを伝え合うことで互いのよさや個性が生かされること、人と人とのつながりも深くなることを実感してきた。この活動を校内だけではなく、地域のために役立てたいと考え、提案するものである。

横手市のよさや魅力は、市報、よこてｆｕｎ通信、市のホームページ、かまくらＦＭ、よこてれびなどによって発信されているが、現在、その成果や課題としてはどのようなことがあげられているのか伺う。

各校で取り組んできたことを生かし、地域のために、私たちが横手市のよさや魅力を発信することを提案する。具体的には、各校がそれぞれの地域のよさや魅力をＰＲする動画を作成したいと考えている。伝統行事や観光名所などの知名度の高いものはもちろんのこと、住んでいるからこそ感じるよさ、地域の方々が努力して開発を進めているものなど、それぞれの地域のよさや魅力を発信したい。それを、市のホームページに掲載したり、市報にＱＲコードを掲載したりするなど、市のために活用していただくことはできないか。

また、動画以外でも、市の行事やイベント、生活の中などで中学生が感じた横手市のよさを各校で集め、横手市のＳＮＳを活用した情報発信の中で、中学生が発信するコーナーなどをつくっていただけないか。

これらの発信にふれることで、横手に来てみたいと考える方々が増え、集客につながると考える。また、私たち中学生を含めた市民にとっては、当たり前すぎて意識していなかったことが、実は横手市のよさや魅力であるという新たな気付きにつながり、そしてその気付きが、ふるさと横手を愛おしく、誇らしく思うことにもつながっていくものと考える。

３．十文字中学校　横手北中学校　横手清陵学院中学校

〔説明者代表〕　十文字中学校　２１番　髙　橋　英　佑　議員

「Ｙ８発！横手を元気にキャンペーン」の実施について

横手市中学校創快宣言の【あいさつ】や【感謝】を基に、各校が実践してきたことをＹ８の全中学校が合同で行う活動、さらには横手市全体に広げていく活動である「Ｙ８発！横手を元気にキャンペーン」として提案する。

１、「横手愛グリーティングＤＡＹ」の設定

各校では、創快な学校生活をつくるためにあいさつ運動に取り組んできた。この取組を小中学校合同の運動として実施することにより、小・中学校の連携が広がり、あいさつの向上や関わり合いの面での効果が表れてきている。この運動で得た実感や成果を、学校の枠を超えて、地域を巻きこんだ活動として市全体に波及させるため、横手市を元気にする「横手愛グリーティングＤＡＹ」を設定するという提案である。

このあいさつ運動は小・中学生に限らず、地域住民・市全体を巻き込んだ活動としたい。市民があいさつの大切さに目を向け、意識して明るいあいさつを交わし合うことを通して、市民としてのつながりを感じ合うきっかけとなる日にしていきたい。そのためには、あいさつ運動を行う範囲を広げていく必要があるが、私たち中学生が直接お願いすることの難しい企業や様々な機関への広報、また、地域の方と共にあいさつ運動を行える場の提供にご協力いただきたい。

２、「横手愛クリーンアップＤＡＹ」の設定

各校で行ってきたクリーンアップ活動をＹ８の全中学校で一斉に行い、さらに地域の方々と協働して取り組むことのできる活動にするという提案である。各校のクリーンアップ活動だけでなく、地域の大人たちと協働して取り組む必要があると考える。あいさつ運動と同様に、「横手愛クリーンアップＤＡＹ」を設定し、小・中学生全員で通学前や通学途中などに自分が可能な方法でクリーンアップをすることを提案する。また、地域住民、市内企業で働いている方々などにも協力を呼びかけ、市民全員で活動する日を設定するという取組を進めてはどうか。

そのために、中学生では声を届けることのできない企業、各種機関への広報、また、ラジオや回覧板等で協力依頼を地域に発信していただきたい。コロナ禍で伝統行事や様々なイベントが中止となり、市民が共に活動する機会が減っている中で、改めて市民が協働してつながりを強めていくきっかけにもなると考える。

各校で取り組んできたことを学校同士が協働で行ったり、地域と協働したりすることで、少しでも市民に元気を届け、活気のあるまちづくりの力になれるのではないかと考える。